

名寄周辺モデル地域圏域検討会 物流ワーキングチーム

(2) これまでの取組経緯

道北地域の恒常的な物流課題

地理的
条件

- 都市部からの時間距離が遠い
- 主要貨物(農畜水産物)の貨物量の季節変動が大きい

社会的
条件

- 宅配輸送への偏重
- 地方部の人口減少の加速

物流課題

- 片荷等の非効率な輸送形態
- 高コストの物流

- 宅配事業の収益環境悪化

道北物流業の衰退・
宅配サービスの縮小
が懸念される事態

令和2年

共同輸送実証実験

- トラック運行状況、積載物の状況、積載率からトラックの空きスペースを利用した混載輸送の可能性を確認し、『道の駅トラック時刻表』を作成
- 時刻表を活用し、道の駅「もち米の里なよろ」を物流拠点として、名寄以北の共同配送を試行



名寄周辺を核として課題解決に向けた検討と取組がスタート

民間の取組

「道の駅を活用した地域連携物流システム」の提言

- 北洋銀行・北海道物流開発の民間2社が、地域のための地域による共同輸送の構築について提言

民間の取組

「道北経済人フォーラム」開催

- 名寄商工会議所が開催
- 道北北部の荷を名寄に集約し、共同輸送する取組を検討

行政の取組

名寄周辺モデル地域圏域検討会

- 物流ネットワークの効率化に有効な取組の検討
- ⇒ 共同配送、貨客混載、**拠点集約化** 等

名寄周辺モデル地域圏域検討会

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

地域の取組

宅配事業者間の連携スタート

- 名寄市が中心となり、大手宅配業者の配送拠点の相互共同利用を実現

名寄周辺モデル地域 物流WT

地域からのアイデア

地域の物流機能を維持するために
「道の駅」が使えるのでは？

- 主要幹線道路に面している
- 人や地元産品が集まる

⇒ 貨物の集積拠点
に適しているのでは

道の駅利用の課題

- 「道の駅」を物流目的で使用可能か
- 複数の温度帯をどう運ぶのか
- 「誰が」「どうやって」運ぶのか

地域の関係者による議論



令和3年

令和4年

令和5年

令和6年

令和7年

令和8年

令和9年

令和10年

令和11年

令和12年

共同輸送の調査・試行によって道の駅の「物流拠点」としての利用可能性を検討

地域の取組

道北圏域ロジスティクス総合研究協議会 設立

- 地元民間企業を中心とした検討体制も構築

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

名寄周辺モデル地域 物流WT

産学官の取組

「共同輸送・中継輸送実装研究会」設立

- 持続可能なシステムとするために、より多くの民間事業者の参画を求めながら、マッチングの仕組みづくりの検討・実証を行う

「ロジスク」誕生

道北ロジスク in旭川

道央ロジスク in札幌

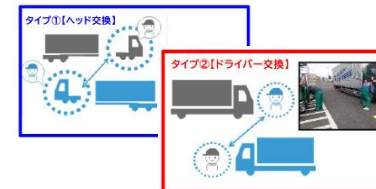
- 物流課題や、共同輸送・中継輸送したい品目・ルート等について、物流事業者同士が少人数のワークショップで話し合える場を提供

新たな物流課題

- トラックドライバーの不足
- 2024年問題

「道の駅」等を活用した
小ロット貨物の効率化や
中継輸送の実証・可能性
検討、道北物流調査

中継輸送実証実験



- 「道の駅」において、様々な中継方式（ヘッド交換・ドライバー交換等）/輸送経路で中継輸送の実証実験を実施。効果を確認。

